

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国 11年5月) ～コア CPI 上昇率は2ヵ月連続のプラス

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コア CPI 上昇率は前月と変わらず

総務省が7月1日に公表した消費者物価指数によると、11年5月の消費者物価(全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI) は前年比 0.6% (4月:同 0.6%) となり、上昇率は前月と変わらなかった。事前の市場予想 (QUICK 集計:0.5%、当社予想も 0.5%) を上回る結果であった。

総合前年比 0.3% (4月:同 0.3%)、食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合は前年比 0.1% (4月:同▲0.1%) と2年7ヵ月ぶりにプラスに転じた。

消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
10年 1月	▲1.3	▲1.3	▲1.2	▲2.1	▲2.0	▲1.4
2月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	▲1.8	▲1.8	▲1.3
3月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	▲1.7	▲1.8	▲1.2
4月	▲1.2	▲1.5	▲1.6	▲1.5	▲1.9	▲1.4
5月	▲0.9	▲1.2	▲1.6	▲1.4	▲1.5	▲1.4
6月	▲0.7	▲1.0	▲1.5	▲1.0	▲1.3	▲1.4
7月	▲0.9	▲1.1	▲1.5	▲1.2	▲1.3	▲1.4
8月	▲0.9	▲1.0	▲1.5	▲1.0	▲1.1	▲1.4
9月	▲0.6	▲1.1	▲1.5	▲0.6	▲1.0	▲1.3
10月	0.2	▲0.6	▲0.8	0.3	▲0.5	▲0.6
11月	0.1	▲0.5	▲0.9	0.2	▲0.5	▲0.6
12月	0.0	▲0.4	▲0.7	▲0.1	▲0.4	▲0.5
11年 1月	0.0	▲0.2	▲0.6	0.0	▲0.2	▲0.3
2月	0.0	▲0.3	▲0.6	▲0.1	▲0.4	▲0.3
3月	0.0	▲0.1	▲0.7	▲0.2	▲0.3	▲0.3
4月	0.3	0.6	▲0.1	▲0.1	0.2	0.0
5月	0.3	0.6	0.1	▲0.1	0.1	0.1
6月	-	-	-	▲0.2	0.1	0.1

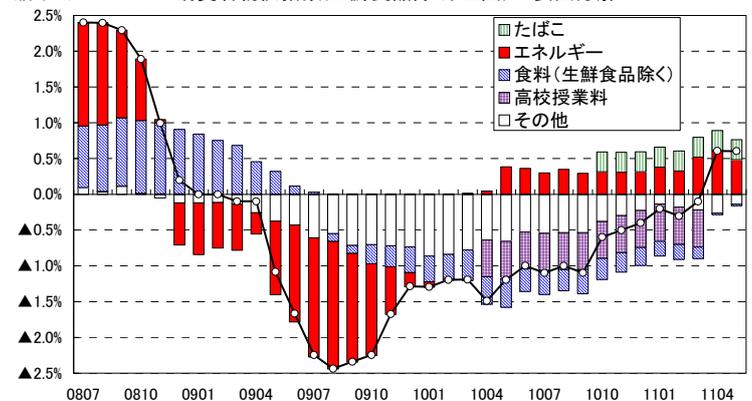
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コア CPI の内訳をみると、電気代 (4月:前年比 1.5%→5月:同 1.9%) は上昇幅が若干拡大したが、ガス代 (4月:前年比 2.2%→5月:同 2.1%)、ガソリン (4月:前年比 13.2%→5月:同 9.0%)、灯油 (4月:前年比 26.1%→5月:同 20.0%) の上昇幅が縮小したため、エネルギー全体の上昇率は4月の前年比 7.3%から同 5.7%へと縮小した。

食料品(生鮮食品を除く)は前年比▲0.1% (4月:同▲0.1%) と22ヵ月連続で下落した。

コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が 0.48% (4月は 0.61%)、食料品(生鮮食品を除く)が▲0.02% (4月は▲0.02%)、たばこが 0.28%、その他が▲0.14% (4月は▲0.26%) であった。

消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解



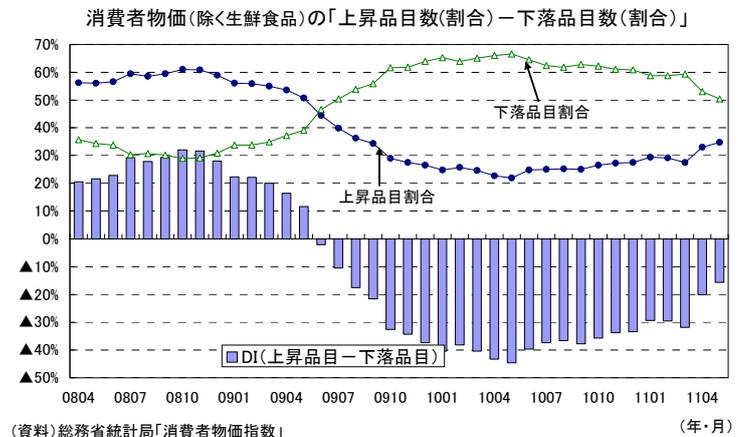
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

(年・月)

2. 物価上昇品目数が2ヶ月連続で増加

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、5 月の上昇品目数は 182 品目（4 月は 173 品目）、下落品目数は 264 品目（4 月は 278 品目）となり、上昇品目数は2ヶ月連続で増加した。

上昇品目数の割合は 34.7%（4 月は 33.0%）、下落品目数の割合は 50.4%（4 月は 53.1%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲15.6%となり、前月の▲20.0%からマイナス幅が縮小した。



3. コア CPI 上昇率は夏場にかけてさらに高まる公算

6 月の東京都区部のコア CPI は前年比 0.1%（4 月：同 0.1%）となり、上昇率は前月と変わらなかった。事前の市場予想（QUIXK 集計：0.2%、当社予想は 0.3%）を下回る結果であった。東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が 0.20%（5 月は 0.19%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.15%（5 月は▲0.09%）、たばこが 0.21%、その他が▲0.16%（5 月は▲0.22%）であった。

ここきて原油高が一服したこともあり、ガソリン、灯油価格の急上昇には歯止めがかかっているが、電気代、ガス代は資源高の影響が遅れて反映されるため、今後上昇率が高まることを見込まれる。また、食料品価格（生鮮食品を除く）は現時点では前年比で下落を続けているが、原材料価格の上昇は徐々に小売価格に波及しており、今後数ヶ月のうちに上昇に転じる可能性が高い。エネルギー、食料品の上昇を主因として、コア CPI 上昇率は夏場にかけて 1%近くまで高まることが予想される。

なお、当研究所では、11 年 8 月（全国 7 月分）に実施される基準改定（05 年基準→10 年基準）に伴い上昇率は▲0.6 ポイント程度下方改定されると試算しているが、現時点では品目別ウェイト、モデル品目の計算方法等が公表されていないため、この試算結果は幅をもって見る必要がある。品目別ウェイト、モデル品目の計算方法等は 7/8 に総務省から公表予定される予定となっている。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。